

地域包括ケアシステム (医療と介護の連携) —行政との連携進捗状況—



小山地区医師会の取組みについて

小山地区医師会 (ハンディクリニック) 坂口 敏夫

はじめに

小山地区医師会は新4号国道が縦貫する形で南から野木町、小山市、下野市、上三川町と南北に連なっており、更に人口167千人の小山市と25千人の野木町では行政の特性・地域性も異なります。

平成27年度(27年11月～)からの「在宅医療連携拠点整備促進事業」への参加についてエリア内の2市2町と協議した結果、小山市と下野市が参加することとなりました。残りの2町は諸事情のため参加を控えた経緯がありました。

地域包括ケアシステムでは各市町村がそれぞれの規模と特性に応じた、言わば“身の丈に合った”“持続可能”な仕組みを築いていくこととされています。事業実施前に示された資料の【事業内容①～⑦】のメニューを地域に合わせた解釈で、何からやるか・どんな形でやるかが肝要だと思います。

平成29年3月で「在宅医療連携拠点整備促進事業」を終え、4月からは小山市の「在宅医療・介護連携推進事業」を受託したところですが、以下、先の事業からの取組みも含めて、医師会の行った事業と活動の一部をご紹介します。

○地域の医療・福祉資源の把握・活用

「平成28年度 在宅医療ガイドブック」として2市2町の医科、歯科、薬局、介護事業所 約600施設のデータを掲載したものを作成し、全事業所および行政施設へ配置したほか、啓発事業の際に来場者に配付しました。在宅医療では医師等が患者宅に訪問するので、近くにある医療機関が訪問してくれる保証はありません。そこで、小山市内を5つの地域に分けて、自分の住んでいる地域にはどの医療機関が訪問できるかという情報を掲載してあります。

○多職種連携会議の開催

小山市では平成27年度に多職種および市民代表を構成員として「地域包括ケアシステム構築推進会議」

を設置し、連携のための会議・多職種の研修・市民啓発等について継続的に検討を重ねてきました。また下野市においても平成28年に「医療介護連絡協議会」を設置し、同様な活動に取り組んでいます。小山市では多職種連携のワーキンググループが立ち上がりワーキンググループを中心に研修会等を開催していく予定です。

○24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築

平成27年度に“在宅医療”への理解と参加を目的として医師会員を対象として「在宅医療入門講座」を本会エリアの南部と北部の2カ所で開催しました。これらは中長期的にトータル的な課題として捉えています。

○地域住民への普及啓発

小山市では平成28年度に市内6地区のコミュニティーセンターを会場に主に医師会委員を講師として啓発講演会「在宅医療ってな～に？」を開催し、平成29年度は“高齢者いきいきサロン事業”の場での講演会を計画しております。啓発講演会は講師を担当してもらった医師の都合の良い時間(pm7:00から)に開催しましたが、もっと参加者の出席しやすい時間帯を検討する必要があると感じました。

最後に、地域包括ケアシステムの構築の主体は行政であると考えておりますが、推進して行く上で医師会に係る部分が多いことは間違いなく、医師会も含めた多職種がそれぞれの強みを生かした連携を行政と一体となって市民と共に進めて行く必要があります。

現在の地域の在宅医療・介護の需給バランスはどうでしょうか？では10年先、15年先はどうでしょうか？本会では将来の地域の要請に応えられる体制と仕組みづくりに協力してまいります。